

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2004.12) 5巻1号:67-75.

JICA集団「母子保健人材育成」コース研修 地域における母子保健活動
地域保健看護学の立場から

北村久美子, 藤井智子, 杉山さちよ

依頼稿 (報告)

JICA 集団「母子保健人材育成」コース研修 地域における母子保健活動 —地域保健看護学の立場から—

北村 久美子* 藤井 智子* 杉山 さちよ*

1. はじめに

近年、わが国は国際的地位も著しく向上し、国際社会における責務として世界の発展に貢献することが要請されるようになった¹⁾。本大学においても、教育理念の中に「医学・看護学の教育・研究及び医療活動をととして国際社会との連帯を深め、その発展に貢献する」と謳っており、教育目標にも「国際交流の基盤となる幅広い視野と多様な能力を身につける」という一項を掲げている。

このたび、JICA 集団「母子保健人材育成」コース研修の中で、特に「地域における母子保健活動」の分野について企画し、実施する機会を得た。研修の企画に当たって考慮したことは、学内での講義・演習はもとより開発途上国といわれる国々から当大学に來学されるからには、日本の最北端の地に位置する大学の地域特性を体感できるように、地域の母子保健に関するこれまでの課題と施策について、現状を視察し技術を研修できることを最優先に掲げたことである。研修の具体的な内容については、道北地域の自治体に長く勤務している保健師に相談し協力を求めた。保健師からは、「この町に保健師として着任し、最初に手がけたのが健全な社会の基盤づくりとなる母子保健活動であり、JICA 研修目的は十分に理解することができるので、是非協力したい」との快諾をいただいた。この保健師は、同僚が青年海外協力隊員として赴いた地に自ら出向き見聞を広めていた。さらに、研修効果について話し合い、地域医療機関についてはリファラル体制をはじめサテライト方式を導入している総合病院を紹介して頂き、道北圏域をフィールドワークとする企画となった。

このように大学と現場の連携・協働で研修企画を行い、実施した2年間の足跡を振り返り報告させて頂くこととする。

2. 国際看護活動の意義と必要性

まず、国際的な視点から看護職がどのように期待されているのかについて概観してみよう。健康で平和に暮らしたいという願いは洋の東西を、さらに先進国・開発途上国を問わず共通な願いである。しかし、世界人口の8割を占める開発途上国と2割の先進国の間には著しい健康水準の格差がある²⁾。健康水準はその国の社会経済状態と密接に関係しており、一国のみでは解決困難であり、不平等格差を是正するための国際協力が求められている。1978年にWHOとUNICEFにより、「西暦2000年までにすべての人に健康を (Health for All; 以下、HFA と略す)」を目標に、ソ連のアルマ・アタで開発途上国向けの健康創造の戦略として「プライマリ・ヘルスケア (以下、PHC と略す) に関するアルマ・アタ宣言」が提唱された³⁾。その後、PHCは世界の健康問題を考え、改善に取り組む人々にとって共通基盤となった。アルマ・アタ宣言では³⁾「健康は基本的な人権であるにもかかわらず先進諸国と開発途上国との間には明らかな格差があり、同じ国内においてさえも同様な格差があるが、これらの不平等は是認できないものである。この不平等と格差を解消し、21世紀までにすべての国民が社会的経済的に生産的な社会生活ができる健康水準に達するように各国政府、国際機関およびすべてのコミュニティは全力を傾けなければならない。PHCはそのためのカギである」と強調されている。その後、1981年には、「HFA 達成の目標を支える看護」宣言が出され、PHCを提供すること

*旭川医科大学 看護学科地域保健看護学

は看護実践の延長線上にあるとされ、看護職は健康の保持増進、疾病予防の分野を優先し、保健ニーズに対応して活動することが提言された⁴⁾。その後、1985年には当時のWHO事務局長のマーラー氏が世界の看護界に対して「PHCを基盤とした保健制度変革の必要性について迫られている今、そのカギを握っているのは世界中の何百万という看護師である。PHCについて同じ考え方、信念を表明し、一つの力となれば社会変革の原動力となりうる」と看護職への期待の声明を出した²⁾。その内容は、看護師の病院から地域への役割変化、健康問題に関する住民の健康教育、健康開発のための職種間チームへの積極的参加、ヘルス・ケア・チームの中での意思決定に管理的責任を果たすことであり、非専門職ヘルスワーカーの指導監督を含むPHCの組織のリーダーとなることが期待された。

同年に、WHOから「PHCニードに対応した看護教育と実践」のテクニカルレポート⁵⁾が出され、多くの開発途上国では、看護教育のカリキュラムを病院での治療中心の看護から地域での予防主体の内容に転換し、PHCを基盤とした地域看護を強化するようになった。

さらに、1986年にはWHOの主催により東京で開催された「全ての人々に健康を(HFA)のための看護におけるリーダーシップに関する国際会議」では、HFAのための看護師の実際の役割と可能性、看護のリーダーシップの開発と促進のための具体的な戦略と行動が話し合われた。このように、国際機関であるWHOや120カ国が加盟する国際看護師協会等において国際看護活動のあり方が共有化されるとともに、国際協力による看護活動も展開されている。例えば、2003年12月26日のイラン南東部バム市の大地震では、市内の建物の大半が崩壊し、死者4万3,200人、被災者7万5,600人の大きな被害をもたらした。わが国の看護協会は日本災害看護学会と共同で4カ月の現地調査を行った結果、仮設診療所などで救援活動に当たる看護師に、生活支援を中心とした援助活動が必要であると判断し、看護の復興支援のため募金を募るなどの活動を行っている⁶⁾。

つぎに、わが国の国際看護活動の現状をみると⁴⁾、開発途上国への国際協力の仕組みとしては、大別して政府ベース(GO:政府開発援助)による協力と民間ベース(NGO:非政府機関)による協力、国際機関

に対する協力がある。政府ベースの技術協力は、主として国際協力事業団(以下、JICAとする)により実施されており、専門家の派遣、開発途上国からの研修員の受け入れ、機材供与の三つの形態で協力が行われている。また、若い看護職が活躍する場として青年海外協力隊(JOCV)の活動がある。いずれの分野でも開発途上国から日本への期待が大きく、広く国際看護活動ができる人材が求められている。このような背景からも、海外から看護職の研修員を日本国内で受け入れて大学や病院、保健所、看護学校などで実施される国際研修も重要であると思われる。

そこで、当大学で実施している研修は、国際看護活動の一翼を担っているといえる。

3. 地域における母子保健の動向

今回のJICAによる研修目的は、母子保健人材育成にあるためわが国の地域における母子保健の動向について、簡潔に述べることにする。

人類生存の基礎としての母子保健は、人間の健康問題の原点として個人や家庭にとどまらず、広く社会の問題として国民の将来や人類の発展にもつながる重大な意義がある⁷⁾。

わが国の母子保健対策の中で、母親側への支援などの歴史は戦後にさかのぼるが、第二次世界大戦後の昭和23年9月に母子衛生対策要綱により、行政運営の基本方針が示され、行政施策に位置づけることにより、母子衛生の進展が図られたといえる。その結果、乳幼児死亡率、妊産婦死亡率が年々減少し、わが国の母子保健の水準は戦前とは比較にならないほど向上した。しかし、母子の健康に関して改善されなければならない問題が多く取り残されていたため、昭和40年8月に母子保健法が制定された⁸⁾。この法律により母子に一貫した総合的な保健対策として主に都道府県(保健所)により推進されることになった。

具体的な対策として、まず母親・乳幼児の健康診査および保健指導に関する実施要領(昭和41年)が示され、妊娠、出産の支援に関しては、妊産婦の糖尿病に対する医療援助と保健指導(昭和43年)、妊娠中毒症等療養援護事業(昭和53年)の事業が進められるとともに、健康診査の徹底、医療給付などの拡大など従来実施されてきた制度の充実が図られてきた。これらの対策は先に述べたように、都道府県(保健所)が実施主体

となつて行なわれてきたが、平成6年には住民に最も身近な市町村において妊娠、出産、育児や乳幼児保健サービスの提供を図るという観点から母子保健法の改正が行なわれた。

乳幼児健康診査および家庭訪問指導の実施主体が、都道府県から市町村に一元化され平成9年施行となり、現在、実施されている地域母子保健活動は市町村において推進されつつある。このようなことから、地域における母子保健活動の現状視察は市町村において実施されるのが効果的であると判断した。

ここで、最近の母子保健施策の動向を概観すると、平成11年には「少子化対策推進基本方針」が策定され、いわゆる「新エンゼルプラン」が示された。平成12年には21世紀の母子保健のビジョンを示す「健やか親子21」が示され、内容として世界最高水準にあるわが国の母子保健の残された新たな課題を整理し、これからの取り組みの方向性が示されている。この「健やか親子21」はヘルスプロモーションの考え方を基盤として各種関係機関ならびに団体が一体となって推進する国民運動計画として位置づけられており、2001年から2010年までの10年間を実施期間としている。その主旨は、大きく「母子保健」から「親子保健」への転換・拡大を目指したもので、行政・関係機関などの取り組みの指標を階層的に整理し、2010年の達成目標値を設定し中間期の2005年に必要な見直しを行なうこととされている。

出産・育児と住民の一番近くにあり直接サービスを担う市町村の役割は重大であり、今後、ますます住民参加と関係機関・団体との連携・協働による母子保健活動が求められるであろう。

4. 研修内容と効果

1) 研修企画計画書に基づき実施することとした(表1)。

2) 講義・演習(平成15年6月2日、平成16年6月4日に実施)

内容は、主に「日本における地域保健看護活動(公衆衛生看護ともいう)の概要」「地域における保健師活動」、「地域における母子保健に関する施策」、「地域での母子保健看護活動」、「地域における健康危機管理(災害時)と保健師活動」(16年度追加)である。研修員からの質問ならびに感想などをとおし効果として挙げられ

るのは、第一に、日本における地域保健看護活動の歴史から多くのことを学んだことであった。例えば、第二次世界大戦前における「北海道の巡回看護婦制度と活動(1937年~1942年)」、戦後の「北海道開拓保健婦の活動(1948年~1960年)」、岩手県沢内村の保健医療福祉行政と保健婦活動があげられ、特に、ビデオ教材の「自分たちで命を守った村—沢内村—(昭和30年~40年代)」には、研修員それぞれの現在の国の状況と類似性があると述べ、ひどく共感していたのが印象的である。

第二に、看護職の知識・技術についてであった。特に、乳児健診場面における保健師の面接技術に深い関心を示していた。ビデオ教材である「信頼される保健師をめざして—心がかよいあう健診—」を鑑賞した後、討論を行い、各研修員の国における看護職の質の問題について多くの課題をもっていることが明らかにされ、教育の必要性を受けとめていた。

第三には、子育て支援サークル、自主サークルを結成していくプロセスにおける保健師活動の実際であった。実際の活動事例である「育児サークル・トコトコができるまで—保健師の地域支援活動」には、多くの質問があり、熱心な討論が続き、今後の母子保健活動の方法論として地域組織育成方法に多大な関心を寄せていることを感じた。

また、事前に英訳資料を作成し配布したことは、研修員の事前学習のために、また、講義・演習の展開を効率的に進めるためにも有効であった。

3) フィールドワーク(平成15年7月14日~16日、平成16年6月28日~7月1日に実施)

15年度は講義・演習の後、研修目標、日程、北海道ならびに道北地域の特性、訪問市町村の人口動態はじめ概況などの説明を行いフィールドワークの事前学習を実施した。

16年度も同様に実施した。特に、16年度は前年度の結果をふまえ余裕をもって、研修員の要望を聞き大学および協力機関と打ち合わせを行ったり、研修員と意見交換を行うなど、事前学習を深めることができた。

(1) 15年度研修

初年度でもありそれぞれの協力機関における研修状況の一端を紹介する。フィールドワークは小型バスによる移動であった。研修員は、車窓からの緑豊かな風

景に砂漠地帯の自国と重ね合わせているかのように見入っており、草木の香がする原野に降り立つと躍り上がって喜びを体で表現していた。

【名寄市立総合病院】

広域かつ医療過疎である地域の実情を理解し、二次医療圏での病院、医療従事者の果たす役割を理解することを目的に、佐古病院長の「道北圏域における地域医療の現状」、泉副病院長の「道北圏域における救急医療」そして河村産婦人科医長の「道北圏域における母子保健医療」の講義と意見交換が行われた。道北地域における医療現状および保健医療体制を学ぶフィールドワークの導入にふさわしい内容であった。研修員は妊産婦が各地方から片道約2時間かけて受診していることなど広域かつ医療過疎である地域の実情に、自国の体制と重ね合わせながら学んでいる様子であった。

また、院内見学は産科病棟、分娩室、新生児室、産婦人科外来（平成16年度）で病院利用者および医療従事者との接触もあり、二次医療圏での病院の果たしている役割について理解された。

【枝幸町】

枝幸町では、枝幸町国保病院と保健福祉センターが併設されており、保健・医療・福祉の連携がとりやすい形態であった。

まず、保健師係長から町に赴任して最初に着手したのは母子保健対策であり、母子保健は各種保健活動の基盤となるほど重要な対策であることが強調され、現在取り組んでいる母子保健活動の実際につきスライドをとおして説明を受けた。その後、母親学級の教材として保健師と母親による手作りの「文香ママ人形」を作製した経緯とその人形を用いて、お産の経過のデモンストレーションと演習を行なった。「文香ママ人形」は保健師の巧みな操作でお腹の赤ちゃんの様子、回旋、出産、後産までわかりやすく模擬体験できる仕組みになっていた。研修員は、柔らかい布製の妊婦人形を囲み実際に手にとって分娩介助を行い、赤ちゃんが生まれてくると「カンガルーベビー」と歓声をあげながら介助を行なう場面もあった。

つぎに、管理栄養士から調理実習室で「離乳食教

室」の実態について説明を受け、その後、地元の新鮮な食材を用いて作られた数種類の離乳食の試食をした。研修員の反応として、ドロドロにした味のない離乳食を不思議そうに顔にしわをよせて試食していた。ジャマイカでは、離乳食は「生後6~7ヶ月から与え、口・舌の発達に応じて大人の食べ物を調理して与えている」、パプアニューギニアでは、「人々はこれを食べるとビタミンが補給されるなどの知識はない」と話していた。研究員の国々には自治体に栄養士は採用されていないということであった。

最後に、国保病院の小児科外来と薬局を見学した。小児科医から小児医療の現状と保健師との連携について説明を受けた。研修員は薬剤師の活動と薬局内の見学には強い関心を示し、どの研修員も羨望のまなざしで見入っていた。研修員から薬剤師に対して多くの質問があり、中でも「有効期限が切れた薬はどのようにしているのですか」と聞かれて、「“捨てています”とはとても返答できませんでした」と帰り際にいわれた薬剤師のことばが今も耳朶から離れない。また、予防接種ワクチンの種類、管理方法、接種方法、接種時期などに対しても関心が高いように思われた。

【稚内市】

保健師のアイデアが、トイレ、相談室、健診室、調理実習室などの至るところに取り入れられて設計された清潔感にあふれた保健福祉センターに研修員は驚いていた。

市の第三次総合計画・エンゼルプランに位置付けられている母子保健活動の現状について説明を受け、討論を行った。研修員が関心を寄せる質問には「母子手帳の活用」「若年妊娠」「未熟児訪問」「出産場所」「健康調査」「予防接種」「妊婦の破傷風予防接種」などがあり、これらについて各国との意見交換がなされた。

また、子どもの歯の健康対策として8020運動の取り組みに、各研修員は大変興味を示した。カメルーンでは、「こどもの虫歯は大都市に顕著にみられ新しい問題であり、郡部では昔の習慣が残っており高齢者は全部自分の歯である」、パプアニューギニアでは、「農村地域では甘いものといえばさとうきびとバナナです」などと、このような会話の中で保健

師は、「たぶん稚内市にしかないでしょう」といってモカ入りの甘い大福もちをごちそうして下さり、研修員一同、全員舌鼓を打ちながらおいしくいただいた。

【遠別町】

川島町長から「町では経済も低成長下で悪く、高齢化・少子化に伴い、過疎化でかつてない問題を抱えているが、お金のない中で住民の方々の幸せのために頑張っています」という挨拶にはじまり、保健師の創意工夫にあふれた母子保健活動の実情などを学ばせて頂いた。

子どもの体力不足、肥満、野菜嫌い、おやつなどの食生活の問題に対して、栄養士と保健師が考案した「豆腐と小麦粉のドーナッツ」、「チーズと牛乳、スキムミルクの蒸しパン」という工夫をこらした手づくりのおやつを堪能した。栄養士さんから、町では生活習慣病が問題であるが、各国の日常的な食べ物を教えて欲しいと希望された。

ジャマイカでは、朝はバナナ、オレンジ、ライス、塩鮭、卵、昼は野菜ソーセージ、土曜日はスープの日、日曜日はライス、豆、チキンスープとメニューが豊富なのに驚いた。モザンビークではライスに塩、落花生、とうもろこしがゆ、パプアニューギニアではココヤシ、タロイモ、バナナ、かぼちゃの種、バナナの葉で包んだ蒸し肉などとぼつりぼつりと話され、「アフリカのエリトリアでは内戦が起きていて食べるものがないのです」といわれ、一同がシーンとなってしまう心が痛む思いであった。

ところで当日は、町のお祭り日で役場の前に詠らえた祭壇を背に、白装束に身を包んだ天狗と写真を撮ったり、「何故、天狗が現れるの」とたずねるなど楽しんでいた。

【羽幌町】

前日の夕方、ホテルで到着を待ってくださった野上主幹からバラの花束を送られ、旅の疲れが抜けたように一人一人の研修生の表情が美しく、安らぎが感じられたようだ。当日は、町の母子保健管理体系の説明を受けた後、近隣3町村協働の母子通園センター事業に参画することができた。母親、乳幼児、学童（小学6年まで）、保健師、保母、療養相

談員（専門家）などとチーム連携のもとで事業が企画されており、研修員一同も行動を共にした。研修員から、「発達障害がみられるかもしれないが、普通の子どもと一緒に行動できることはすばらしい。子供同士の学びで成長するだろう。日本は少子化で母、子を集めるのも大変だろうが、ぜひ続けて・・・」とエールを送られ、保健師も喜び、感動していた。保健師からも、「母親が研修員と自分の子どもが楽しそうに遊んでいるのを見て子どもが成長していると感じ、感激していたこと」との情報を後日いただいて、草の根による国際交流の意義を実感したものである。

(2) 16年度研修

フィールドワークにおける主な実施内容を研修目標に対応させてみた（表2）。

ここでは、研修目標および方法・日程について、研修員の発言内容、アンケートおよびレポートの記載内容から以下のように評価を試みた。

【目標1について】

道北地域での実情については、現地に出向きそこでの看護職・医療職から話を聞くことで、理解が深まった。バスによる移動で広域という距離感をつかむことができた。地域の医療の実情、産婦人科や小児科が偏向していることによる住民の不便さを理解し、だからこそ地域での予防・保健の重要性を納得することができた。

各地域の特徴については各市町村からの説明で理解できたようだった。母子保健の水準は高いが母親の孤立化や医療機関が遠距離であることの課題について理解していた。

【目標2-①について】

各市町村での講義を受け実践活動に参加することで、道北地域が抱える母子保健問題および保健施策について具体的に理解することができた。母子管理体系についての講義はスライドを使ったり（枝幸町）、ホワイトボードに管理体系と担当部署の全体像を表現する（羽幌町）など、各市町村で丁寧に実施され理解が深まったようである。しかし、妊娠届に始まり、就学時までの管理体系についての話はど

表2 フィールドワーク実施内容

研修目標	実施内容						
1. 広域かつ医療過疎である地域の実情を理解し、二次医療圏での病院、医療従事者の果たす役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修地域の特徴と健康課題・母子保健統計 ・町長さん挨拶（地域の概況を交えて） ・二次医療圏での医療機関の役割と課題 産婦人科・小児科の過疎 オートマチック化された分娩 助産師の施設偏向による課題 ・枝幸町国保病院薬剤部の見学 						
2. 道北地域の母子保健問題と保健施策を理解する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="379 555 770 972">①地区の健康課題、周産期や乳幼児の各発達段階・健康レベルに応じてどのような活動がされているか具体的に学ぶ。</td> <td data-bbox="770 555 1439 972"> <ul style="list-style-type: none"> ・母子管理体系についての講義 妊娠届・母子健康手帳・各種健診・予防接種・家庭訪問・相談・母親学級・療育システム・地域の性教育・IT健康管理システム ・活動の実際の見学・参加・体験 母親教室—ハンドメイド人形の活用体験 離乳食教室—栄養士の活動・試食体験 療育の場面に参加・体験 絵本ブック運動の見学 高齢者のデイケア見学（16年度） 各保健福祉センター、母子通園センター施設の見学 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 972 770 1104">②地域の母子保健に関する健康問題の変遷とその問題への取り組みの過程を理解する。</td> <td data-bbox="770 972 1439 1104"> <ul style="list-style-type: none"> ・開拓保健師との面談（都合により実施できず） ・保健師の語り </td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 1104 770 1272">③現在の母子保健についての課題、今後に向けてどう取り組むか理解する</td> <td data-bbox="770 1104 1439 1272"> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の課題—育児環境・母親の孤立化、発達への支援 ・解決方法—地区組織活動、管理職、他職種との連携・協働活動 上記について保健師と研修員とのディスカッション </td> </tr> </table>	①地区の健康課題、周産期や乳幼児の各発達段階・健康レベルに応じてどのような活動がされているか具体的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・母子管理体系についての講義 妊娠届・母子健康手帳・各種健診・予防接種・家庭訪問・相談・母親学級・療育システム・地域の性教育・IT健康管理システム ・活動の実際の見学・参加・体験 母親教室—ハンドメイド人形の活用体験 離乳食教室—栄養士の活動・試食体験 療育の場面に参加・体験 絵本ブック運動の見学 高齢者のデイケア見学（16年度） 各保健福祉センター、母子通園センター施設の見学 	②地域の母子保健に関する健康問題の変遷とその問題への取り組みの過程を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開拓保健師との面談（都合により実施できず） ・保健師の語り 	③現在の母子保健についての課題、今後に向けてどう取り組むか理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の課題—育児環境・母親の孤立化、発達への支援 ・解決方法—地区組織活動、管理職、他職種との連携・協働活動 上記について保健師と研修員とのディスカッション
①地区の健康課題、周産期や乳幼児の各発達段階・健康レベルに応じてどのような活動がされているか具体的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・母子管理体系についての講義 妊娠届・母子健康手帳・各種健診・予防接種・家庭訪問・相談・母親学級・療育システム・地域の性教育・IT健康管理システム ・活動の実際の見学・参加・体験 母親教室—ハンドメイド人形の活用体験 離乳食教室—栄養士の活動・試食体験 療育の場面に参加・体験 絵本ブック運動の見学 高齢者のデイケア見学（16年度） 各保健福祉センター、母子通園センター施設の見学 						
②地域の母子保健に関する健康問題の変遷とその問題への取り組みの過程を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開拓保健師との面談（都合により実施できず） ・保健師の語り 						
③現在の母子保健についての課題、今後に向けてどう取り組むか理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の課題—育児環境・母親の孤立化、発達への支援 ・解決方法—地区組織活動、管理職、他職種との連携・協働活動 上記について保健師と研修員とのディスカッション 						
3. 道北地域における地方自治体での保健師・助産師・看護師の役割を理解する。	<p>住民の健康づくりファシリテーターとしての保健師の役割、地域医療機関の医師・助産師・看護師・栄養士・薬剤師の役割、理学療法士、作業療法士、保母、言語療法士等の役割</p>						

こも同じ内容であり、少々しつこい印象になった。最初に訪れる町で共通である全体の管理体系について講義を受け、その後は、それぞれの町の特徴を学び、実施している母子保健事業に参加し、思春期の性教育を追加するなど内容をしばるとよいと思われる。

講義だけではなく離乳食を試食し妊婦人形などの媒体にふれ、実際に療育の場面に参加することが、さらに、活動内容を具体的に理解するうえで有効であった。離乳食については栄養士の役割について考えるよい機会になった。保健師だけではなく他職種との連携・協働活動が重要であることへの理解につながった。

療育の場面には、豊富町と羽幌町と2回参加し、ほとんどの研修生が療育の意義・内容について印象深く学んでおり、また、子どもの発達を地域でサポートしていく方法について理解できたようであった。

ここでは、

- 1) 母親自身が療育場面で子どもとの関わりを学ぶ場であること、
- 2) 子どもにとって達成感のあるプログラムであること、
- 3) グループによる支援ということで母親同士のつながりを大切にしていること、
- 4) スタッフと母親との良い関係が築かれていること、

を学んでいた。母子保健活動に参加する場合、場面、場面で活動の技術を説明すると理解しやすいようであった。

高齢者へのケアについては、研修目標に示されてはなかったが、たまたま稚内市でデイサービスの場面を見学することができ、保健師は母子保健に限らない活動の対象の広さを感じ、役割理解につながったと思われる。

研修員が地域で行われている実際の活動に参加し体験することは、目標2-③、目標3についてのディスカッションが活発に行われるなど研修効果が高まると思われた。今後、家庭訪問や乳幼児健診の場面に可能な範囲で参加し体験できる企画を検討することも必要である。

【目標2-②について】

道北地域の開拓者の生活と健康を守るために働いていた開拓保健師の話を知りたくて、稚内市で聞く予定であったが都合によりできなかった。来年度、再度検討したい。しかし、事前の学内での講義において保健師活動の歴史、岩手県沢内村での地道な活動について学ぶことにより、地域の母子保健の変遷と問題への取り組み経過を理解することができた。

【目標2-③について】

目標2-①での講義や体験を材料に保健師とのディスカッションをとおり、地域母子保健問題およびその解決方法について理解できた。日本における取り組みだけではなく、各国の取り組みについて情報交換し比較することにより相互の理解が、一層深められた。一方的に日本における方法を教えるという姿勢ではなく、お互いの体験から学びあうという雰囲気が良かった。

【目標3について】

目標1と2を達成することで、看護職の役割について考える機会となった。また、保健師の熱心なオリエンテーションや活動に対する考えを聞くことで、保健師のもつ知識・技術について理解できたようだ。自治体における看護職の役割の理解だけではなく、他職種（医師・薬剤師・栄養士・行政職員・町長など）との協働で地域の健康問題を解決するこ

との必要性を学んだようであった。保健師だけではなく他職種の人々もこの研修に協力してくれたことから、地域における母子保健活動は住民はじめ他職種との連携を深めることの必要性を感じられたようである。自治体における保健師の役割は十分に理解されたようであるが、母子保健に従事する助産師、看護師の役割はあまり表現されていなかった。名寄市立総合病院で助産師の活動内容がわかる英訳資料が配付されたがあまり有効に使われなかったので、来年度は意識して説明するとよいと思われる。また、保健師からみた助産師、看護師との連携を説明してもらうことにより、保健師のコーディネーターとしての役割が理解できるとともに地域母子保健における助産師、看護師の役割についての理解にもつながるのではないかと考えられる。

また、目標3は、フィールドワークのみに終わらず、実施後、大学でのディスカッションをとおりして内容および問題の整理を行うことにより、一層、理解を深めることができた。よって、来年度も可能であればフィールドワーク終了後、ディスカッションするとよいのではないと思われる。

【方法・日程について】

英訳資料を配付したことは各市町村への理解が深まり事前学習のため有効であった。

日程については、アンケートに「短かった」と回答したのは1名のみであり、他の全員が「丁度良い」と答え、移動による疲労も見られずに適当な日程であった。また、1か所の協力機関における研修時間を延長し、十分に話し合いがもてることを望んでいる研修員が多かったため、今後、協力機関の負担を考慮しながら滞在時間について研修内容と合わせて検討する必要がある。

5. 今後の企画に向けて

フィールドワーク後、研修員の要望により医療依存度の高い小児の家庭訪問を旭川市内の大西病院訪問看護ステーションの協力を得て実施できたが、今後、市町村での家庭訪問の体験を検討してゆきたい。また、研修目的外にある高齢者を対象とした地域保健看護活動について、たまたま稚内市でデイサービスの場面を見学し地域では母子保健以外の対象の幅と活動方法の

理解を深めていた。また、エジプトの研修員から、IT機器を使った健康管理および遠隔医療機器を用いた在宅ケアの研修要望があげられた。このことから、次年度は研修員のニーズを捉え柔軟に対応できるよう協力機関との事前協議あるいは新たな自治体の開拓に向けて、今から取り組みたいと考えている。

6. おわりに

道北地域における各協力機関から、「海外の研修員との交流ができることは、住民ならびに職員にとって刺激になり地域の活性化につながっている。殊に、職員は研修員からの評価を受けることにより仕事への意欲が湧いている」という成果を聞き、研修員の受け入れをとおして大学が地域に貢献できることを実感した。今後とも研修員にとって実り多い内容となるよう、事前準備と実施を計画的に進めたいと考えている。

ここに、名寄市立総合病院はじめ各自治体の多大な御協力、御指導ならびに保健師魂をキャッチし適切な

通訳をしてくださったJICE（日本国際協力センター）南貴和子氏に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 厚生統計協会：国民衛生の動向，第51巻第9号，27-29,2004.
- 2) 津村智恵子：地域看護学-国際看護活動-，中央法規，366-373,2004.
- 3) 嶋内 夫訳：21世紀の科学戦略-ヘルスプロモーション、ヘルス・フォー・オール-，垣内出版株式会社，1995.
- 4) 森口育子：わが国の保健師による国際保健活動の歴史と意義，保健婦雑，58(11),916-923,2003.
- 5) WHO:Regulatory Mechanisms for Nursing Training and Practice:Meeting Primary Health Care Needs.WHO.1986
- 6) 日本看護協会：協会ニュース-イラン大地震被災地の看護師支援-，443(5),2004.
- 7) 三品照子編：母子地域看護活動論-母子保健の概念-，1-11，メジカルフレンド社，2000.
- 8) 福島富士子：妊娠、出産に対する市町村支援などの変遷と今後の展開，公衆衛生，167(3),2003.